

果樹・果菜類の受粉を助ける 花粉媒介昆虫の調査マニュアル

世界の主要な農作物の生産は、受粉を助ける昆虫や鳥類等の働きに大きく依存しています（写真1）。わが国においてもリンゴやナシ、ウメ、カキ等の果樹、カボチャやニガウリ等の果菜類の生産には昆虫による受粉が必要です。農研機構では花粉媒介昆虫を積極的に利用し、これらの農作物を安定的に生産することを目指して、花粉媒介昆虫の標準調査法をまとめたマニュアルを公開しました。



写真1. カキに訪花するマルハナバチ

☆ 技術の概要

1. 本マニュアル（写真2）は昆虫の観察に慣れていない普及員等を対象に、主要な花粉媒介昆虫の見分け方や訪花個体数を把握するための調査手順を解説しています。
2. 調査対象とする昆虫はミツバチ類、マルハナバチ類、小型ハナバチ類、ハナアブ類、ハナバエ類です。ミツバチ類やマルハナバチ類、ハナアブ類については目視観察により訪花個体数を把握します。一方、小型ハナバチ類とハナバエ類については粘着板トラップにより捕獲し訪花個体数を把握します。これらの情報はミツバチの巣箱導入や人工授粉の必要性、薬剤散布の時期等を判断する材料として有用です。
3. カキ等については標準調査法により把握した訪花個体数に加えて、調査園地における結果率と平均種子数を掲載しました。これらの情報を参照することにより、各園地の自然受粉が十分であるか判断することができます。



写真2. 公開した花粉媒介昆虫調査マニュアル

☆ 活用面での留意点

1. 本マニュアルは農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究「農業における花粉媒介昆虫等の積極的利活用技術の開発」（2017-2021）の成果をもとに作成されました。
2. 本マニュアルは下記の URL からダウンロードいただけます。
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/niaes/139079.html
インターネットの検索サイトで、「花粉媒介昆虫調査マニュアル」をキーワードとしてご検索ください。